

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800315		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・えびすヶ丘		
所在地	島根県益田市下本郷705-29 (電話) 0856-31-1250		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月29日

【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算6.7	人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	380 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	6 名	要介護2	0 名			
要介護3	0 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	88.2 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑病院 松ヶ丘病院 中島齒科医院 村野医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人担当者から常に情報提供や助言を受けながら、家庭の延長としてのホームづくりを目指し実践しているホームである。ホーム内は和やかな雰囲気溢れ、利用者は生き生きと野菜の下ごしらえをしたり、ラジオを聞いたり、気の合う人と談笑したり、職員との明るい会話に笑いながら生活している。職員は独自の自己評価表に基づいて日々ケアの振り返りを行い、利用者の自主性を尊重した楽しい生活の支援を心がけ一緒に行動している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	課題であった「プラン作成への家族参加」「重度化・終末期に向けての方針の共有」は改善され家族との話し合いが行われている。「備蓄」「同業者との相互訪問」は継続課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員でガイドブックを参考にしながら項目に沿って話し合い自己評価を行った。日頃のケアを反省するところもあり、職員全員で課題に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの近況や取り組みを報告し、出席者と意見交換をしている。地域代表者から行事への参加呼びかけがあったり、徘徊ネットワーク作りで意見交換をするなど、討議内容を運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や法人としての年1回のアンケート調査、家族会総会などで意見の引き出しを図っている。家族からは利用者に関しての気付きや相談、地域の老人クラブとの連携の提案等が出されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、ひなたぼっこ便りを回覧したり、清掃、敬老会などの地域行事に参加している。見守りや話し相手、エステなどの地域のボランティアとの交流や季節の花や野菜などの差し入れもある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内で検討を重ね、利用者が今までの生活に近い環境の中でその人らしく暮らすことを目指した開設時からの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、一人ひとりの職員が理念に沿ってケアができたか自己評価を行い、職員会議で話し合い互いに確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、便りを回覧したり新年会や草刈り、清掃などの地域行事に参加している。エステや不定期だが話し相手や見守りのボランティアとして地域の人々の訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員が話し合いながらガイドブックを参考にして評価を行った。課題は会議で検討し改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組みを報告し、地域行事への参加のお誘いがあったり徘徊ネットワークづくりについての意見交換などを行っている。議題により出席者を工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のケアに関する相談や、マニュアル作成時に助言をもらうなど日常的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話、便りで様子を伝えている。職員の異動や紹介は家族会総会でも報告している。	○	積極的に記録物を開示して利用者の様子を伝え、家族と情報を共有されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催し、家族同士が互いに思いを話し合っている。家族の話の聞いたり、相談を受けることもある。毎年、法人として家族アンケートを実施し意見を運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は行われていない。止むを得ず離職があった場合は、利用者との関係を大事にし遠慮なく面会に来てもらうように話している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての計画的な教育システムがあり、職員は外部研修、内部研修共に参加する機会が多い。新人研修は認知症ケアに関して具体的な内容で行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人担当者が毎月近隣の同業者の集まりに参加し情報を伝えている。職員は他法人同業者との職員交流会に参加し情報をケアに活かしている。	○	以前行われていた法人内グループホームでの相互研修や、法人外での相互研修の実施を望みたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居をしてもらいサービスを開始している。入居後も状況によって家族の面会を多くしたり利用者と一緒に自宅訪問をするなど、家族の協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶ姿勢で接し、利用者の得意な柏餅や角寿司などを一緒に作り教わっている。利用者のできないことにもさりげない会話で盛り上げ笑顔で援助している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から思いを汲み取り全職員で共有している。わからない場合は家族から情報を得検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で話し合い計画を立てている。参加できる家族にはカンファレンスに参加してもらっている。利用者にとっても職員にとっても楽しい計画内容が具体的に立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月見直しを行い、利用者の状態を把握している。状況に変化がある時は随時見直し家族とも話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり健康管理や早期退院に努めている。外泊や家族のホームでの宿泊など、状況により柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の納得したかかりつけ医で、定期的な往診があり必要時には受診の支援をしている。医師とは相談しやすい関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療的な対応・看取りに関する指針」があり家族に説明している。ホームでできることを最大限したいと考えていて職員も方針を共有している。必要に応じ関係者と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重した言葉かけや対応を心がけ浴室にはカーテンを取り付けプライバシーを守っている。個人情報の取り扱いについて家族に説明し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースや喫煙、就寝前の談笑など、利用者の希望やペースにあわせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせ、職員と一緒に生き生きと準備や片づけをしている。職員も同じ食卓を囲み利用者に気を配りながら楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間帯での入浴は行っていないが、利用者の希望を聞きながら毎日でも入れる入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、野菜や花づくり、漬物づくりなど、利用者が生き生きと活動できる場面づくりをしている。利用者は自主的に野菜の下ごしらえなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在インフルエンザ対策から人の多い所への外出は少し控えているが、行き先を工夫し、買い物、ドライブ、山などに出かけている。外出機会の少なくなった人にも日光浴など心がけている。	○	利用者の意欲が低下しないように、様子を見ながら外出支援に努めていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に日中は鍵をかけていない。外出希望のある時は同行しているが、利用者や職員の状況では一時的に鍵をかけることがある。	○	外出願望のある利用者に対し支援方法が立てられているので、今一度検討し、鍵をかけない工夫を検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の人々の協力を得て避難訓練を実施している。定期的に自主的な訓練も実施している。2階からは旧建物で使用していた階段を避難経路としている。	○	ホーム独自に備蓄品の検討が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を使いバランスのいい食事内容になっている。特に水分の摂取量には気をつけ、食後はお茶のおかわりを勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物を減らし、家庭的な雰囲気となるよう工夫している。利用者に合わせたテーブルがいくつかあり、思い思いに過ごせる場所も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や写真、花、鏡など、利用者それぞれに必要なものを持ち込み居室づくりをしている。さらに家庭の延長となるような居室づくりを目指している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。